

# 講演会(第2回)

## 『技術立国日本の先駆者』

日本繊維機械学会は昭和23年に設立され、本年で68年目を迎えます。設立当初は戦後の復興期に当たり、繊維産業は基幹産業として我が国の経済再興の牽引役を果たし、戦後経済発展の一翼を担ってきました。それから約70年経過し、紆余曲折を経て産業としての舞台は東南アジア諸国に移りつつありますが、その基礎となる関連技術は我が国において、益々発展の一途にあると言っても過言ではありません。

本学会では、平成20年に「フェロー制度」を設け、以後、毎年学術技術の進歩発展に顕著な貢献をなされた方にフェローの称号を授与しています。この技術立国日本の礎をつくった先駆者の方々に講師に招き、成功と失敗談、光と陰の部分を腹藏なく語って頂く講演会を企画しました。ベテランはもちろん、若手の方々にも是非ご参加をお勧めします。

【日時】平成27年8月21日(金) 13.30~17.15

【会場】大阪科学技術センタービル (<http://www.ostec.or.jp/data/access.html>)

(大阪市西区靱本町1-8-4、地下鉄四つ橋線「本町」下車、28号出口北へ徒歩約5分)

【内容】

### (1) 日本の毛織物染色・整理技術の変遷と差別化商品開発への挑戦 (13.30~14.30)

日本繊維機械学会フェロー、森技術士事務所 森 益一

私は戦後の日本の復興期に、当時、著名な毛織物の染色・整理会社に就職、以来46年間ひたすら毛織物の染色・整理の現場で技術の研鑽と新商品開発に専念してきました。入社した昭和25年当時はまだ戦前のヨーロッパ製の機械設備や染色・整理技術で工場のレイアウトから仕上方法、製品の風合いまで英国式の基本であった。その直後に洋服地の需要の急増から毛織物加工設備の連続化、高速化更に既製服化の進展とともに毛織物の風合いも昭和25年当時の物とは異なり一言で言えば紙のようなものになっていった。その原因はいくつかあるが紡績や織布の高速化省力化、合成繊維混紡・交織織物の増加、生活環境の変化による服地の軽量化もある。

しかし、1970年代になって既製服の快適性の追求が求められ、生地への風合いに対する要望も高まってきた。KESの開発もその時期である。その後1980年後半からイタリア製品の輸入だけでなく、整理加工機の大量導入で毛織物の仕上の基本を変える大ブームを引起こし、現在に至っている。筆者はこれらの大きな3つの変遷を体験した。これらを、KESを使って科学的に解析し日本の毛織物染色・整理技術の変遷を説明します。

一方、10年間は染色の現場で実務を経験し辛酸もなめた。当時の新技術1:2型含金染料の導入、羊毛用反応性染料によるCold Pad Batch染色処方及び毛織物の防縮技術Van Cola, Neva-Shrinkについて説明し参考に供する。更に、筆者は委託加工の染色、整理業の立場で常に顧客に対して新しい差別化商品開発提供を任とし、常に最先端の新技術を提供してきた内容についても簡単に説明します。

## (2) 布の動的ドレープ係数の紹介 (14.45~16.15)

日本繊維機械学会フェロー、カトーテック (株) 技術顧問

テキスタイル風合い研究所代表 松平光男

昭和55年の4月、故川端季雄先生に弟子入りして以来、テキスタイルの風合い、外観、快適性に関する研究に従事するようになり、本年3月金沢大学を定年退職するまで、テキスタイルの研究は丁度35年間になります。テキスタイルの風合い研究では、恩師である川端、丹羽先生らの研究のまねごとで終わってしまったようです。今回はテキスタイルの外観に注目し、新しく提案できた布の動的ドレープ係数 (回転ドレープ増加係数、飽和ドレープ係数、反転ドレープ係数) について、その定義と意義を紹介したいと思います。動的ドレープ係数を用いたフレアースカートの外観客観評価についても紹介します。また、テキスタイルの快適性についても、若干の試みと水分移動特性測定装置についても触れたいと思います。

## (3) ディスカッション (16.15~17.15)

### 【講師略歴】

#### 森 益一

1950年、岐阜工業専門学校紡織科卒業。同年、艶金興業(株)に入社。1953年、同社津島工場染色主任。1959年、同社起工場工務課長兼染色主任。1970年、同社工務担当重役。1976年、中日本繊維工業協同組合(墨総合研究所)常任理事、ツヤック(株)専務取締役兼務。1996年、艶金興業(株)墨総合研究所を退職。1996年、森技術士事務所を設立。1997年、イタリアビエラの市立研究所にて毛織物仕上技術研修受講。1998年、韓国大一毛織(サムソンの母体)で技術指導。2007年、Japan Textile Contestにて「皮のような毛織物」でグランプリ受賞。2012年、英国Textile Institute社からNew Material Award 2012受賞。現在、日本、タイ、韓国、中国で主として染色に関する技術指導。

#### 松平光男

1972年、京都大学工学部高分子化学科卒業。1974年、同大学院(修士)工学研究科高分子化学専攻修了。1988年、同工学博士(繊維工学)。1974年、東芝総合研究所化学材料研究所、1980年、大阪信愛女学院短期大学を経て、1986年から金沢大学教育学部。被服科学、テキスタイル科学担当。ニュージーランド羊毛研究所、ニューサウスウェールズ大学、アグリサーチ社客員研究員を経験。日本繊維製品消費科学会論文賞(2001)、日本繊維機械学会論文賞(2002)を受賞。日本繊維機械学会フェロー(2010-)。2015年金沢大学定年退職、カトーテック(株)技術顧問、テキスタイル風合い研究所代表。

【協賛】大阪染色協会

【定員】50名(定員になり次第締め切らせて頂きます)

【参加費】会員2,000円、非会員5,000円(税別)、学生無料

【申込】「講演会—技術立国日本の先駆者」と明記し、①氏名、②所属、③連絡先(所在地、電話番号、FAX番号、E-mailアドレス)、④会員種別を記入の上、FAXまたはE-mailにて下記宛お申し込み下さい。

【申込先】日本繊維機械学会 FAX.06-6443-4694, E-mail: [i-love-tmsj@nifty.com](mailto:i-love-tmsj@nifty.com)

日本繊維機械学会 行

FAX : 06-6443-4694

E-mail : [i-love-tmsj@nifty.com](mailto:i-love-tmsj@nifty.com)

平成 27 年 8 月 21 日 (金) 開催

講演会 (第 2 回) 「技術立国日本の先駆者」参加申込書

氏 名 : \_\_\_\_\_

勤務先 : \_\_\_\_\_

所属部課名 : \_\_\_\_\_

所在地 : 〒 \_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

連絡先 TEL : \_\_\_\_\_ FAX : \_\_\_\_\_

E-mail: \_\_\_\_\_

会員種別 : \_\_\_\_\_

連絡事項 :

今後、本学会からの開催行事案内メール配信を

希望する ・ 希望しない

希望するを選ばれた場合メールアドレスを記載下さい

E-mail: \_\_\_\_\_